



国登録有形文化財に答申

旧丹後邸

能登地方を代表する近代和風建築物



今求められる古民家の価値とその後の利用
今後の改修利活用に期待

平成27年に寄附された旧丹後邸が7月21日、国登録有形文化財に答申されました。

旧丹後邸は、麻織物で成功した丹後氏の住宅で、当時の先進技術を導入し、絹織物の生産拡大に努め、海外への販路拡大を図っていた頃の繁栄を物語っています。

母屋は農家風の特徴をもつアズマダチの外観をもち、能登地方の典型的な近代和風建築で、敷地の南側に建つ土蔵は、二棟に大屋根を架け、笠木状の簡明な意匠の窓枠が全体を引き締めています。表塀の上部は透かしのある漆喰塗で、街道の景観を構成し、庭門及び母屋の西側には庭園があります。

今回の答申はこれらの歴史的価値が認められたことによるものです。

◆所在地 鹿島郡中能登町能登部上へ部12番地

◆所有者 中能登町

◆構造形式木造2階建て 正面八間半 側面九間半

延床面積438.12㎡切妻造棧瓦葺き

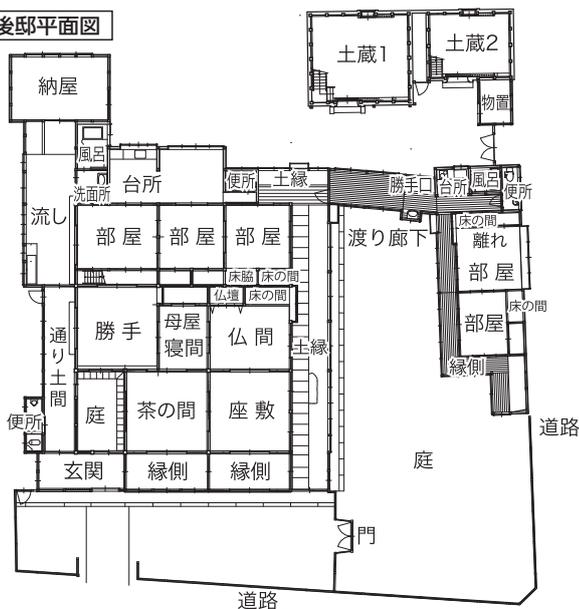
妻入り アズマダチ型

◆建築年代 昭和8年、一部増築



旧丹後邸平面図

土蔵



茶の間

間取りは、土間に面して茶の間をとり、茶の間裏に勝手と寝間を並べ、上手に座敷と仏間を加え、さらに裏側に部屋が一系列えられています。茶の間は、意匠にこだわった空間であり、梁を井桁状に組み見せるなど、細部にこだわりがみられます。藩政期以降の伝統的技術を受け継いだ昭和初期の中能登の民家の典型を残す価値の高い建物と評価できます。

求められる活用

今後は、旧丹後邸を含めた周辺の町並みが、重要伝統的建造物群保存地区に指定されることを目指していきます。建物の歴史的価値と景観を活かし、現代のニーズと、様々な活用事例、既にある古民家みおやの里との併用ができる活用策を考慮した上で改修し、皆様に愛される建物にしていきたいと考えています。



座敷

旧丹後邸を見学・利用したいときは？

- ◆ご利用・ご見学を希望される場合は、事前にお申し込みください。
- ※普段は施設を開館していません。
- ※利用を希望される場合は、中能登町古民家条例に基づき利用申請及び使用料を納めていただいた上で、ご利用できます。
- ※見学を希望される人は、見学日の1週間前までにご連絡願います。
- ※宿泊はできません。

【利用料】

9:00 ~ 13:00	2,000 円
13:00 ~ 17:00	2,000 円
17:00 ~ 22:00	2,500 円
9:00 ~ 22:00	5,000 円

問い合わせ 中能登町企画課 ☎ 74 - 2806 まで